

地質技術者として所属していた中堅建設コンサルタントから独立し、10年前にデータアシスト(横浜市)を設立した伊藤総人氏は「最近になって、地質の3次元モデルデータ作成に関連した相談が増えてきた」と明かす。売り上げの大半は電子納品



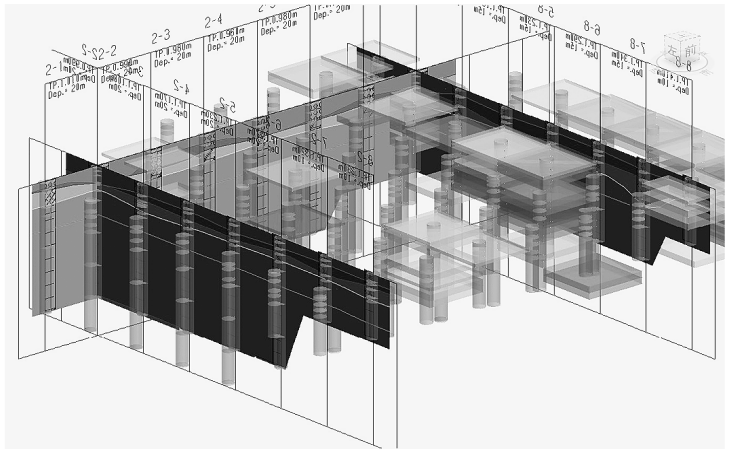
データの作成業務が占めているものの、ここ1年間で3次元関連の受託業務は20件ほどにまで広がった。「将来的には3次元化の領域を主軸に活動したい」と期待を込める。

依頼内容は本格的な3次元解析支援が10件、残り10件は2次

元の地質データをひとまとめにして3次元的な見せ方で提案した内容だ。「これは地質情報をもとで、純粋な3次元モデルではない。実は、この手法を今後は積極的に展開していきたい」と考えている。背景には、地質業界の3次元化に対する遅れがあり、パネル化の需要は今後さらに拡大するとの読みがあるからだ。

説明用ツールで注目

通常2次元の地質図面類は、ボーリング位置図、調査位置の柱状図、地層断面図などで構成し、そこに地層の工学特性や土質試験結果などの関連情報が付加される。汚染土壌ではホットスポットの位置や地下水の流れ方、砂層の幅なども情報として入れ込む。このように多岐にわたる2次元の関連情報を、3次



ここ1年間で10件の依頼を受けた

た相談が舞い込むようになってきた。説明用ツールとしても3次元モデルの有効性に目を向ける依頼者は多く、その大半が出来る限りコストはかけたくないという思いを持っている。

そもそも3次元解析には、時間と手間がかかる。これを解消できれば、ビジネスとして売り込むことが可能と考えた。市販されている3次元土木地質CADの属性管理機能を活用し、地質の関連情報を3次元的に表現できるパネル化の手法に行き着いた。

元的に分かりやすく集約しようというのが同社の考え方だ。近年は、大手コンサルを中心に3次元解析の導入が拡大し、それに連動するように中小からも3次元モデルの作成に関連し

伊藤氏は「シンプルかつスピーディーに効率的な3次元の地

パネルで3次元的に提案

シンプルに関連情報集約

質。パネル化が実現できる」と強調する。

解析結果の評価必要

地質の3次元解析では業務を外部に依頼する際、その外注先には地質の豊富な専門技術を持っているかが問われる。ボーリングの調査結果や堆積層の時代背景を踏まえ、地質分布を厳密に予測する必要もある。地質の3次元解析手法は既に確立されているが、その解析結果をしっかりと呼び出せるノウハウが求められるというのだ。

伊藤氏は「いくつかのソフトウェアを使いこなして3次元化を行うのではなく、できるだけシンプルに3次元に取り組むことをキーワードに掲げて提案している。コストと時間をかけず、3次元的な見せ方が当社の強み」と訴える。3次元パネルは設計データとの連携が可能となり、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)的な切り口として、施工段階の工程管理に活用できる利点もある。